

## 国内外の市場動向から見えてくる 小売・流通業界の未来とDXの必要性

### 生産性のさらなる向上が求められる小売・流通業界 NECはテクノロジーを軸に業界全体のDXに貢献

日本電気株式会社 リテールソリューション事業部門  
主席ビジネスプロデューサー

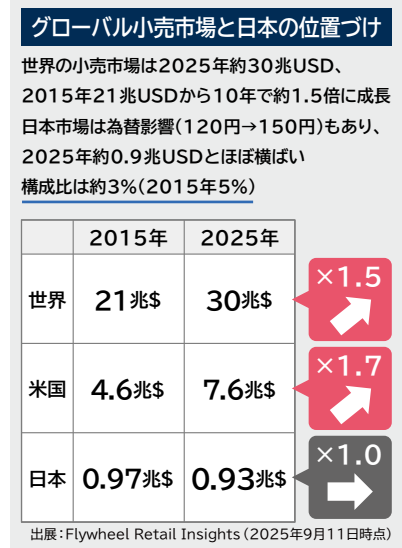
納富 功充 様



#### 日本の小売市場に影を落としている 労働力不足と実質賃金の伸び悩み

2025年現在、世界の小売市場は約30兆USDドル規模に達し、この10年で約1.5倍に成長しています。一方、日本の小売市場の規模は10年前からほぼ横ばいで、世界の小売市場での日本の構成比は約5%から約3%に低下しました（図10-1）。

<図10-1>



国内の小売・流通業では、物価上昇と人手不足が続いています。名目賃金は上がっても実質賃金は伸び悩み、現在も消費者の節約志向が市場の動向に影響を及ぼしています。商業動態統計によると、日本の小売市場規模は2024年167兆円<sup>(※)</sup>で、約5年前からやや成長基調です。しかし、物価上昇の影響で市場規模が大きくなっているだけという見方もあります。

このような環境下で国内小売市場の競争は激化し、業態別に見るとスーパーマーケットやEC、ドラッグストアは高い伸長率を維持して

※国際データとは、集計方法が異なるため数値に差があります。

います。スーパーマーケット市場では、毎日低価格で販売するEDLP（Everyday Low Price）が特徴のディスカウント型スーパーの食品が、特に好調。ドラッグストアの食品販売額も非常に伸びており、スーパーマーケットと競合しつつあります。

#### マクロ環境を踏まえて見つめ直す 小売業界のDXトレンドと事例

前述のマクロ環境を踏まえ、小売業界の経営アジェンダとして挙げられるのが、労働力不足や人件費高騰などの生産性向上に対する課題です。次に成熟した市場を切り拓く新たな事業モデルの構築、AI技術の活用とセキュリティリスクへの対策でしょう。

近年のDXトレンドは次の通りです。トライアル様の西友買収や、ドラッグストア業界での経営統合といった「業界再編」。AIやロボットを活用した「省力化施策」。リアルとテクノロジーを掛け合わせた新しい「顧客体験（CX）の向上」。ますます高度化・増加しているサイ

<図10-2>

